東郷村報

第42号

昭和30年6月15日
発行所
宮崎県東臼杵郡
東郷村役場
日向市富高新町
株式会社 安藤印刷所
電話64番

村立東郷診療所開設一周年を祝う

直営診療所開設一周年を迎えて

村長　黒木松美

本村の国民健康保険直営診療所が開設されまして茲に一周年を迎へることが出来ましたことは村民各位と共に誠に慶賀に堪へない処であります。顧みますと本村に於ては以前村立東郷病院を経営し村民健康の守りの殿堂として敬愛されていたのでありますが、当時に於ける諸種の事情により必要な施設でありながらも拘らず遂に事業を廃止することになりましたことは誠に遺憾なことでありました。

以来二十ケ年村民の医療は村内或は他町村の開業医の手によつて実施されて来たのであります。特に急患或は特別な措置を必要とする患者の処置は意の如くならず他町村医師の往診又は入院治療によつて辛じて処置されていました関係で軽易な病気にも尨大な経費と必要以上の日時を要することが多く為に尊き人命まで亡くした事例も尠くなかつたので早急に村内医療施設の完全充実が痛感され村営病院の設立が強く要望されて参つたのであります。

然しながら終戦後に於ける諸制度と経済の変動は村財政に重大な影響を及ぼしこれが実行には種々困難が伴つたので必要に迫られながら空しく日時を遷延していたのでありますが昭和二十七年に至つては村内一万有余の人口に対し僅かに医師一名と云う不安その極に達する状態となつたので直営診療所の建設が提案された処当時の村民経済の状態や既往の苦い経験による運営に対する不安等々慎重に論議されましたが満場一致を以て村民の要望に応ふべく断行することゝなつたのであります。

昭和二十八年十二月着工翌二十九年六月完工、事業開始以来一ケ年その間この運営については決して晴天の日ばかりでなく雨の日も風の日も又嵐の日もあつたのでありますが、台風被害の悲惨な中にあつて村民各位の絶大且真摯な御協力と深い理解とによつてどうにか今日迄運営も順調に歩みを続けて来ましたことは心から喜びに堪へません。関係各位並に村民のこの御協力に対し深甚な敬意と感謝を捧げる次第であります。

本年及将来に於ての直営診療所経営の方針としましては飽迄村民のための施設であることに鑑みこの施設機構を最大最良に活用することに努力する他病棟の増設、産婦人科の開始等について研究を続けていますが今後の直営診療所の運営には尚種々の困難が伴うものと予想せらるゝのであります。

申上る迄もなく診療所の運営は国保の運営と綜合一体をなすものでこの施設と制度が両々相俟つてその妙味を発揮し村民各位の御期待に副うことが出来るものと思うのであります。村民の施設であるこの診療所がその機能を遺憾なく発揮するには関係職員の努力も必要でありますがお互村民がこの施設を村民健康の守りの殿堂として信頼し敬愛し理解協力することによつてこそ開設の目的を達することが出来るものと信ずるのであります。

私は一周年を迎ゆる今日この施設が将来村民福祉の上に大きい責任を果し然も十年二十年後多くの村民から感謝される様村民各位の御協力と関係職員の努力を祈つて止みません。

本村消防陣に〝新威力〟

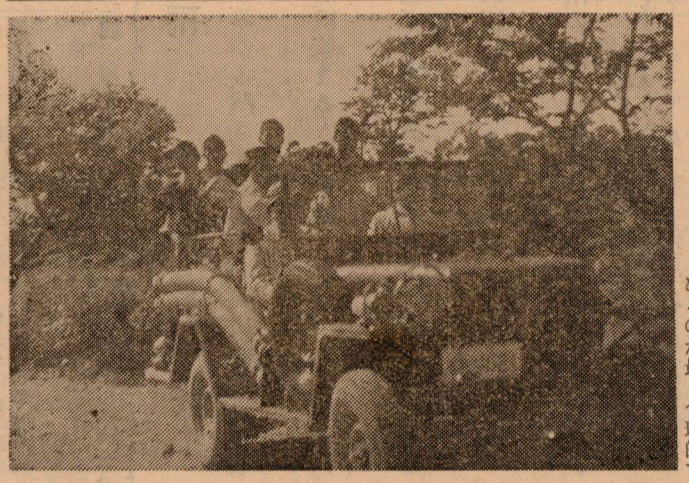
本村消防団が熱望していた消防自動車ポンプにつきましては本村の特殊な地理地形に即応し且つ最も精巧で強力なる機能を有することを条件として厳選してきましたが五月十一日トヨタジープの一〇五馬力エンジンに森田式A2ポンプ（毎分検定放水量六五五ガロン）を装備し新鮮なる赤色ラッカーに塗装したスマートな姿で入車致しましたがその性能等については村民各位の御期待に副い得るものと確信しています。

既に五月十六日に神官を招き村長始め消防団長以下関係者並に村議会正副議長等の列席のもとに厳かな祓式を行い更に五月十七日、十八日の両日は三浦団長自ら乗車し村民各位に対して御礼と被露を兼ね部落を訪問致しましたが各地元消防部長の協力を得て適切なる発水テストを行うことができました。結果はどこでもその優秀性について賞讃を受けることができ同慶に存じています。

尚本消防車をもつて接岸できる河川は部落の近在で約七十ケ所の適地があることも同時調査致して居ります。残されたこの問題は貴重なる消防車を如何に運用し皆さんの御期待に副うやうに管理するかと云うことでありますが取敢ず次の各項について実施検討中であります。

一、消防自動車運営の衝に当る本部員の訓練
二、消防団各部の協力態勢の編成
三、自動車用道路の施設
四、運転技術員の養成
五、防火水槽の施設

その他今日のために昨年より設けました消防団本部員も本村消防の一大威力としての消防車の性能を最高度に発揮すべく非常事態発生に備へはりきつています。此処に入車報告と共に御協力に対し厚く感謝申し上げる次第です。



新鋭自動消防ポンプ車

衛生だより

赤痢はどのように擴がるか

赤痢は季節に関係なく発生していますが消化器系の伝染病ですから当然夏に多く七月から九月までが年間の七割を占めております。既に隣の西郷に三十名近く南郷には百名程集団的に発生しております。

本村にも最近四名の赤痢（疫痢を含む）患者が散発的に発生していますがこれから愈々流行期に這入ることゝ隣村に集団発生している事実から全く危険な環境にあるわけです。**赤痢菌は**赤痢にかゝつた人の便の中だけに出されるものです。便の中から出た赤痢菌はどの様にして人の口に入るのでしょうか**その第一は水で拡ることです**赤痢患者は、はげしい下痢をするものです。田舎ではよくおむつを川で洗つたりおかわにとつた便を川に流したり肥桶を川で洗つたりしますが、こうして赤痢菌の入つた便が下流へ流されて行きます。

下流では野菜を洗う、子供は泳いでいる。手びしやくで一寸水を口に入れる、こうして次の患者が出来ます。上流で菌の入つた便が捨てられるとその川下二里以上もの間危険だと云われます。**井戸も危険です**石がこいの井戸や上が開いたつるべ井戸では安心出来ません。赤痢菌のまじつた便が地上からしみこんで井戸の内側に流れる。井戸のそばに便所やたゝきの無い洗い場があると益々危険です。**その次に便所です**患者のいる家の便所は便泡の中に赤痢菌がうんといるわけです戸の引手にも菌がうようよついています。**次になま物の注意です**これはサシミの様なものだけではなく食べる前に火を通さないものはすべて生ものです。例えば生菓子のようなものでそのまゝ食べられるもので作るときの手や使つた水等からついた赤痢菌にとつて食べ物はよい栄養となるのでどん〳〵増えていくから危険です。そこで**なま物に赤痢菌をつける「手」が問題です**患者の入つた便所の引手にさわる、おむつを洗つた後の手、その手でお料理をつくれば目にこそ見えないが赤痢菌の一杯ついたごちそうが出来ているのです。

特に食堂、飲食店で働いている人、家庭で食事を作るお母さんの手は常に清潔にしておかねばなりません。また赤痢菌を持つたゲリラ隊が居ります**それはハエとネズミ**です。ハエは便や食物に見さかいなく好んでたかり強力な赤痢菌を生のまゝ食物に運ぶ輸送機の役割をします。ネズミは便所の中を歩き廻つた足で台所の食器の上や戸棚の食物に上つてぬすみ喰いして赤痢菌を置いて行きます。こうして赤痢は人の便から人の口へとうつりながら病気を拡げて行きます。そこで赤痢に自分もかゝらぬ様、また人にもうつさないようにして赤痢菌の拡かる道を断ち切るよう積極的に努力致しましょう。

（衛生係）

増收の鍵？
＝田植を合理的に＝

皆さんの御努力によつて大変立派な苗ができました。苗半作と云われている切角の健苗も粗雑な田植から増収を逸している実例が方々に見受けられますので田植は合理的に行い稲のもつている力を充分に発揮させるようにしませう。

◎田植の適期

田植の適期は苗を基準に定めるのが最も合理的です。苗は本葉七葉以後になると下葉が枯れたり、厚播きの場合は節が伸び初めたりして苗の素質が悪くなりますから本葉七葉位で田植をするのが最もよい時期です。

◎苗を「いため」ないように取りませう

どんな立派な苗でも苗取りを乱暴にして根や葉を「いため」過ぎたり腰折れ苗にしたりしたのでは切角の健苗も本田に移して良い成績を収めることはできませんので苗取りはできる限り苗を「いため」ないように又田植に便利なように取つた苗をよく揃えて束ねておくことが田植の能力を高めるのに必要であるばかりでなく本田に植えた場合に深さも揃い「分ケツ」も出穂も成熟もよく揃つて増収の基礎となります。苗代で発生した病害や害虫は絶対に本田に持ちこまないように良い苗の素質はできるだけ本田にもち込むようにしませう。

◎スキ起しと緑肥使い方

深耕と有機質肥料の施用による地力の増進が稲作増収の基盤であることは誰も知つていることですから毎年少しづゝでも耕土を深くするよう心掛けてスキ越しませう。レンゲや青刈のスキ込みは田植の二十日位前に行い生草百貫に対し五貫位の石灰を使うことがよろしい。又緑肥だけを使つて堆肥や厩肥を使はないと稲が弱くなりますから両方を併用して稲作の安全を計りませう。レンゲは刈り取つたあとでも地上部の三分の一位の量が残りますから概算で反当二百貫乃至三百貫程度に止め特にレンゲのよくできた田では刈取跡でも燐酸や加里を充分に施し誤らないように注意しませう。

◎金肥の使い方

窒素質肥料だけを使つて燐酸や加里を使はないのは「オカズ」なしで「めし」を食つて働けと云うのと同じになりますから必ず窒素燐酸、加里を適当な割合で使うようにしませう。

燐酸や加里は全部元肥に施しても無駄も少く使い過ぎても大きな失敗はないので全部元肥にやりますが窒素は一時にたくさん施すと無駄が多く又病害や害虫をさそう原因になりますから三分の二位を元肥にして残りを追肥にする方が安全です特に湿田や冷水がゝりの田とか日陰地では加里の効果が大きいので加減することがよく秋落田では酸性の肥料をさけるようにして特に硫安を使う場合にはできるだけ深く土中に入れるように代掻前に施すようにしませう。

◎施肥の例（反当元肥）

例1 石灰窒素	六貫
熔成燐肥	六貫
塩化加里	二貫
外に自給肥料二～三〇〇貫	
例2 石灰窒素	六貫
塩化加里	二貫
骨粉	五貫
自給肥料二～三〇〇貫	
例3 水稲配合五号	一五貫
自給肥料二～三〇〇貫	

◎代掻き

代掻きを余り念入りにすると土粒が細かくなり過ぎて根の発育を粗害して稲のためによくないので水持ちに支障のない所では田植に困らない程度でなるべく簡単にしませう。多収穫者の中に毎年荒代だけで田植している人が多くあることは一考に価えします。

◎浅植

増収の第一歩は苗をできるだけ早く活着させることです。下部の節から「分ケツ」したもの程穂が大きいのですが深植すると活着が遅れると共に「分ケツ」の節位も高くなつて「有効分ケツ」の数が減るばかりでなく穂も小さくなつて収量が上りませんので田植はなるべく浅植にすることが大切です。

浅植にするには

1. 田植を無茶に急がないこと
2. 深水で田植しないこと
3. 代掻の程度を考えること
4. ていねいに田植すること
5. 苗の大きさに応じた深さにすること

等によつて深植と乱雑な田植とお別れして今年こそ満作に、ほゝ笑む秋を迎えませう。

直営診療所だより

直営診療所が開設されましてこゝに一周年を迎えました。診療所も村民各位の御協力によりまして順調な歩みをいたしていますことは同慶に堪えません。この診療所が開設されましたゝめ本村民の健康生活の向上に又病気の治療の上に有形無形の恩恵に浴したことはかり知ることの出来ない程に多きものがあると思います。診療所は申すまでもなく村民の診療所でありますのでこれを利用し活用していただいて診療所の使命を百パーセント発揮するよう祈念してやみません。

昨年六月から本年三月までの実績を月別に示しますと次の通りであります。

月	受診件数	診療点数
六	三五四	五、七五五
七	一、四三八	二七、五一七
八	一、九八〇	三八、三一六
九	一、九二三	三八、六二八
十	一、八七三	三三、六三五
十一	一、四七四	三二、九〇二
十二	一、四〇八	二五、六〇七
一	一、二三五	二六、五七八
二	一、四四五	三二、〇五八
三	一、三二一	三三、六三二

農協だより

五月十二日役員会ニ於ケル決定事項左ノ如シ

一、昭和三十年度再建整備計画ノ審議決定
一、増資ノタメノ約手利率ハ二、五弍トスル

五月二十日役員会

一、総会提出議案ノ審議決定

一、総会ハ二十三日ト決定

五月二十三日

煙草収納所ニ於テ第七回通常総会ヲ開催出席人員六六二名（委任状含む）デ法定数ニ達シタノデ総会成立

一、昭和二十九年度決算
一、昭和三十年度事業計画
一、昭和三十年度再建整備計画、其ノ他

提出議案十二件ヲ審議決定シタ

六月一日

一、営農資金貸付査定委員会ヲ開催シ各地区毎ニ審査決定シタ
一、本年春肥の貸付を左の通りの方法で実施することにした。

一、農業手形利用者

昭和二十九年度以前の農手借入金未払者及一部支払者にして本年度借入を希望する者に対しては次の条件を附して契約の上借入する。

イ 本年度第二回共済金を全額充当すると共に八月～十二月迄の五ケ月間に農手借入金全額の一割宛を毎月納入する

ロ 麦、甘藷の販売代金並に木炭代金で支払い八月～十二月迄の五ケ月間に農手借入金全額の一割宛を毎月納入する

二、営農資金借入者は春肥代金の支払いに無条件で充当する。

第五回宮崎県社会福祉事業大会における表彰者について

六月十三日県公会堂で開催された第五回宮崎県社会福祉事業大会で左記のとおり大会会長からそれぞれ表彰をうけました。

記

福瀬　岩田　カズエ
母子世帯自立更生者
羽坂　黒木　銀次郎
身体障害者自立更生者
仲深　丸山　春治
社会事業協力者

蠶を尋ねて

海野勝

春蚕はすんだ。今年は日和廻りが順調に進み桑の発育も大変良く従つて蚕の育ちも良かつたので予想以上の収穫を得る事が出来て先づ一息ついた処？『昨年の台風さへなかつたら今年の春は百%の能率を揚げ得たのにと簇中の繭を眺めながら収繭量を目測し一人言』丁度その時役場の係の人が蚕の状況を見に来られたので幸いお話を伺うことにした。

【質】蚕種一〇瓦（一箱）からどれ位収繭するのが普通でしよか。

【答】そうだね蚕期、作柄その人の技術等に依り差を生ずるが大体春の蚕は一箱七貫五百匁から八貫位いは取つてもらいたいね。

【質】そうすると、どんなふうな計算をして収繭量を出すのか簡単にわかりやすく説明して戴けませんか。

【答】今の一箱の卵数は二万粒という事になつているのでこれを基礎として算定するが此の二万粒の卵が全部育つとすると正繭一〇貫以上もとれる事になるが、そうはいかぬ蚕種の発生の良否蚕児の取扱いの良否等に依る減蚕率を見て営繭率（繭になる量）を見るのです。大体催青期から上簇まで普通の場合卵数から見て次の様に算定する。

一箱の卵数　二〇、〇〇〇粒
減蚕率　一五%
営繭卵数（頭数）　一七、〇〇〇粒（匹）

それに技術的になるが桑の良否飼育技術等に依り単繭重（繭一粒の重さ）を見る。例へば一粒五分の繭重と見た場合次の算定に依る。

繭を作り得る蚕の頭数　一粒の繭重　総収繭量（玉屑を含む）
17.000匹 × 5分 = 8.500匁　一箱（10g）総収繭量
8.500匁の90%～95%正繭率　7.650匁～8.075匁　正繭量

【質】では繭を多く取るには先づ飼育技術と良桑を作る事になりますね。

【答】最も多収繭を望むなら第一上手な桑作り上手な飼方と云う事になりますよ両方がうまくいく事に依り養蚕の経営が成り立つ訳ですが当面の問題として桑作りから申上げて見たいと思います。春蚕が一応済んだのでこれから桑の手入れになるが早急に桑の株直を急ぐ事と同時に桑株を浅く掘出し中耕をなし夏肥として六月中反当堆肥三百貫位と配合肥料二〇貫尿素二貫または石灰窒素三貫熔成燐肥七貫を施す事です。大体年間の収繭目標を反当三〇貫の計画の人は次の施肥基準に依る事です。

肥料名	施肥時期及量 二月	六月	八月	十二月	計
堆肥		二〇〇貫		三〇〇貫	五〇〇貫
緑肥	二〇〇貫	一五〇貫			三五〇貫
配合肥料（桑肥）	10貫	二〇貫			三〇貫
尿素		二貫	二貫		四貫
熔成燐肥		七貫			七貫
草木灰			10貫	10貫	二〇貫

以上の施肥設計に依り年間反当正繭三〇貫を取ることが出来ます。特に此の夏肥の施肥からの桑園管理が本年夏秋蚕はもとより来春の春蚕期の収繭を多くするか少なくするかになるので今期の施肥を充分施し反当多収を計つて戴き度いね。

（以下次号）

自給肥料増産共進會表彰式

昭和二十九年度自給肥料増産共進会表彰式は去る五月二十五日煙草収納所に於て盛大に挙行された。

◉共進会成績

一、団体の部（堆肥）

順位	団体名
優等	鹿瀬生産組合
壱等	福瀬下村組合
〃	地内組合
弐等	下渡川組合
〃	日田尾組合
参等	庭田組合
〃	下水流組合
〃	稲葉野組合
〃	落鹿組合

二、団体の部（草木灰）

壱等	越表婦人協議会
弐等	迫之内婦人協議会
参等	羽坂婦人協議会

三、個人の部（堆肥）

順位	組合名	氏名
優等	田野	田原秋義
壱等	落鹿	黒木為次郎
〃	山ノ口	黒木千年
〃	上ノ原	松岡元
弐等	庭田	黒木英夫
〃	鹿瀬	三浦辰夫
〃	仲崎	那須寛
〃	大工野	塩月清
参等	西谷	黒木辰夫
〃	上の原	稲田清
〃	稲葉野	稲田豊吉
〃	落鹿	渡辺求馬
参等	落鹿	植野初太郎
〃	地内	佐藤武務
〃	西谷	佐藤敦
〃	日田尾	高尾博
〃	庭田	黒木全市
〃	吉牟田	荻原竹松
〃	庭田	黒木畩夫
〃	寺迫	海野仁太郎
〃	地内	佐藤寿吉
〃	田野	沖田進
〃	下仲瀬	若杉与作
〃	越表第二	河野実五郎
〃	久居原	三浦旭
〃	又江野上	黒木俊造
〃	硯野	山本今朝市
〃	八重原	高山喜太郎

優良納税者等の表彰式挙行

昭和二十九年度の村税優良納税者等の表彰式は深緑の風香る五月二十五日東郷葉煙草収納所で来賓多数を迎えて挙行されたがこの日栄の表彰を受けた優良納税者は次の通りである。

一、区表彰

寺迫区　小野田区　八重原区

二、優良納税組合表彰

寺迫	山ノ口組合
小野田	小野田第一組合
田野	田野組合
鶴之内	中水流組合
迫之内	地内組合
八重原	上組合
坪谷	上野原組合
越表	八ツ山組合

三、優良納税者表彰

寺迫	黒木為次郎
	黒木初蔵
	安藤勝典
	田代静夫
福瀬	岩田かずえ
	海野司
	鶴田きみえ
小野田	杉村篤一郎
	那須昧市
	小村武夫
	都甲利作
羽坂	木村栄八
	橋口もゝえ
仲深	橋口司
	矢野美義
田野	黒田幸一
	稲田安治
鶴之内	福谷今朝吉
迫ノ内	岩倉登
	佐藤勇
	佐藤吉夫
八重原	伊藤喜市
	藤崎伝作
坪谷	矢野太郎吉
	矢野勇
	那須寛
越表	橋口由太郎
	中里常吉
下渡川	山床時治

四、納税協力者表彰

寺迫	高瀬万次郎
福瀬	塩月義男
小野田	畝原藤吉
◉羽坂	平塚音吉
◉仲深	大石清
田野	谷口繁
鶴之内	中野栄蔵
迫之内	佐藤梅作
◉八重原	那須留
坪谷	矢野与平
越表	田中今朝夫
下渡川	甲斐秋好

五、納税協力団体

福瀬区　出口婦人会

この出口婦人会は村の経済振興方策の重要な一環として主唱される村税完納、滞納一掃を当面の課題として採り上げ自主的自発的に協力し特に村に国民健康保険制度実施以来この保険税の徴収納付を全面的に担当し爾来現在に至るまで優秀な納付成績を挙げているので今回表彰された。

梅雨

牧水

生垣に木がくりみゆる門さきの田植の人に雨のふるなり

雨いよよふれば田植うる人々の寄りきていこふわが門の木に

さやさやと音たてて来し雨脚のいま降りかかる窓さきの木に

梅雨ふるや瓶に挿せればくれないのしみじみ深きダアリャの花

うす日さす梅雨の晴間に鳴く虫の澄みぬるこえは庭に起れり

六月納税のお知らせ

六月の納税は村県民税と健康保険税です。

この月は村県民税と国民健康保険税の第一期がでます。六月三十日が納期ですから期日迄に納税組合、区長を通じて納付下さい。尚異議の申立又は再調査を申請される方は第一期の納付は済してからされます様にお願い致します。

円後と雞

今から四百年ばかり昔、野々崎に野々崎円後という祈禱師がいた。霊験あらたかなので村人は勿論近所近在評判の祈禱師であつた。円後は常に鶏を愛し寸時も身辺からはなさなかつた。

この頃日知屋に日知屋城主の営領に係る塩竈があつた。日知屋の住民の多くは塩やきを業として生計をたてゝいた。坪谷、山陰、田代、塩見、富高、岩脇の各村は皆塩をこの地に仰いでいた。ある年塩がかまの中でいつこう結晶しない。塩業者も塩をこの地に仰ぐ人達も大いに困つた。塩業者達が集つていろいろと相談した結果「これは神のたゝりであろう」ということになり早速多くの山伏をたのんで七日七晩祈禱してもらつたが何のきゝめもなく人々はますます困つた。

塩業者達は再びく相談して野々崎円後を招いて祈禱してもらうことにした。円後は日知屋に赴き一日一晩祈禱した。ところがその験があつて以前のように塩をつくることができるようになつて人々はたいへんよろこび円後の徳をたゝえ多くの金品を贈つて恩を謝した。

前に祈禱した山伏達は自分等の効を奪われたことをねたみついには円後を殺さうとはかつた。円後はこれを聞いて塩見、小野田を経て野々崎に逃げ帰つた。

野々崎に老媼一人暮しの茶屋があつた。円後は老媼にかくしてくれるように願つた。老媼は「うちはお見かけ通り部屋は一つしかないのでかくれる場所がないあの向にみゆる山の大木に洞穴があるあれにかくれなさい」と教えた。

円後は教えられるまゝにその大木の洞穴にかくれた二羽の鶏と一緒に。山伏達は円後の後を追つて野々崎に来てその在り家をさがしたがなかなか見つからないで夜に入つた。しかし山伏達は去ろうともせず夜を徹してさがし求めた。円後は息をこらして洞穴の中に鶏とともにうづくまつていた。東の空がほのぼのと白むころ鶏は羽ばたきをして時をつげた。

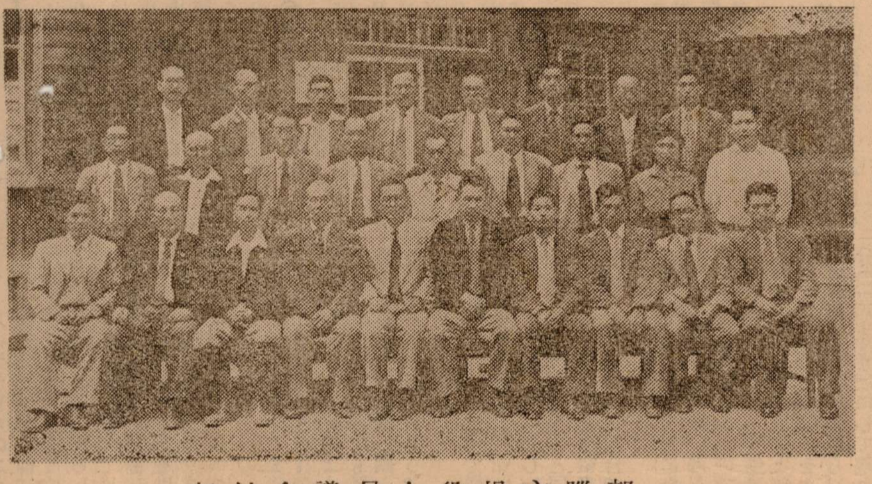
山伏達は鶏の鳴き声をあやしんだ。そしてその鶏のないた山の中をくまなくさがしついに大木の洞穴の中の円後を見つけだしこれを斬つてしまつた。

野々崎の住民達は円後が何の罪もないのに害に遭つた事を憤慨し且つあわれんでその霊をなぐさめるため神にまつり元宮大明神と崇め奉つた。仲瀬神社がそれである。

東郷村の俚謡

まりつきうた

おしろのさん　おんさぶらいしゆが
いちよごで　おかごで
いちよさかどん　しのぶかどん
さしたかどん　どんどとはやるが
どろ神さん
ここはよしはら　さかいのどん
おんよしはらの　おじざうさん　くまざうさん
お江戸にはやるは　おとはちさん
おんしろしろしろ白木屋の
おこまさん　さいぎよさん
たばこのけむりで
ひー　ふー　みー　よー　いつ　むー　なー
やー　この　とう
とうからかえしておしろのさん



新村会議員と役場主腦部

公民館便り

公民館が社会教育のよりどころとしてその使命を着々遂行していますことは同慶の至りでありますがしかしその施設においても又その運営の上にもなお幾多の問題が残されていますのでこれが解決のために村民一致協力して村勢進展のためにつとめていたゞきたいと思います。

本年度の公民館運動は特有作物の奨励、新生活運動の実践、農協再建運動の三大目標に向つて努力したいと思つています。本村の特用作物として将来有望なものゝ一つは茶でありますので茶樹の栽培を奨励をすることにしました。新生活運動では先づ物の見方、考え方即ち心の持ち方について指導し冠婚葬祭の簡素化を徹底することにしました。農協再建についてはその途も沢山ありますが本年は農協貯蓄の励行をすることにしました。月一回（毎月十五日）一人十円貯金、日掛十円貯金、天引貯金、学童貯金等を行うことゝしました。

一万二千村民の心からなる協力を切望してやみません。

編集後記

▲農家は春蚕の上簇、麦や菜種の取入れ、田植の準備、甘藷植等々全く猫の手も借りたいような忙しさ。

▲晨に星をいただいて田圃に出で夕は月を踏んで家路につく、これが昨日、今日の農民の姿である。

▲この農民の日々の生活をいかほどかくつろげてくれるものは何と云つても一家揃つて向う夕餉のひとときであろう。新麦の香り高い栄養価たつぷりな新鮮な野菜料理、それに舌皷うつ顔、顔、顔これによつて今日の疲れを癒し明日の働きへの希望は湧く。

▲かくて今日の日に感謝し明日の日を祈つゝ深き眠りに入る。これ昨日、今日の農民の姿である。この農民に「働けど働けど……」の思いを起させないような施策が施されたいものである。

▲直営診療所が開設されてこゝにその一周年を迎えた。この一カ年に村民の健康生活の上にまた病気治療の上に村人は、はかり知ることのできぬ程の恩恵に浴した。編集子も開設匆々いの一番に恩恵に浴した一人である。一周年を迎えるに当り感謝の念が新に湧いてくる。

▲直営診療所は吾等村民の診療所である。これを百パーセント利用し活用して健康の村東郷の建設に邁進しよう。

深緑の葉かげに帛をさくような時鳥の鳴くねをきく今日村報六月号をおくる。

雨晴れて水無月の風窓に吹く